

2026年 2 月期 第 1 四半期決算説明資料

2025年 7 月15日

株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス（証券コード：2884）

- | **1** 2026年2月期 1Q決算ハイライト
- | **2** 2026年2月期 1Q決算詳細
- | **3** トピックス
- | **4** Appendix

(注) 2025年2月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年2月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2026年 2 月期 1 Q決算ハイライト



売上高は前年同期比100%となったものの、 営業利益・EBITDAは減少



単位：億円



単位：億円



単位：億円

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ コロナ関連補助金収入 - 国庫補助金収入 + M&A取得関連費用

海外事業は、シンガポールにおける景気減速等の影響により減益となり、国内事業は、中国による日本産水産物の輸入禁止措置を受けて帳簿価額を引き下げた棚卸資産（ホタテ）の販売がなくなったことにより反動減となる。

(単位：百万円)	2025年2月期 1Q		2026年2月期 1Q		前年 同期比	2026年2月期 業績見込	
	構成比		構成比			(通期)	進捗率
売上高	14,614	100.0%	14,600	100.0%	▲ 0.1%	60,700 ~ 63,700	22.9 ~ 24.1%
営業利益	1,125	7.7%	700	4.8%	▲ 37.8%	3,000 ~ 4,000	17.5 ~ 23.3%
経常利益	1,263	8.7%	620	4.3%	▲ 50.9%	2,900 ~ 3,900	15.9 ~ 21.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	592	4.1%	286	2.0%	▲ 51.8%	1,120 ~ 1,580	18.1 ~ 25.5%
EBITDA	1,771	12.1%	1,268	8.7%	▲ 28.4%	5,570 ~ 6,570	19.3 ~ 22.8%

- 海外事業は、シンガポールの景気減速の影響、また、前期に実施したホタテの原料販売が当期はなくなったこと等により減収減益となる。
- 国内事業は、ホタテの販売価格が上昇したことで増収となったものの、中国による日本産水産物の輸入禁止措置を受けて帳簿価額を引き下げた棚卸資産の販売がなくなったこと、及びホタテの仕入価格が上昇したことにより減益となる。

シンガポールの景気減速等の影響を受け、海外事業の売上高は減少したものの、国内事業が堅調に推移したことにより、前年同期と同水準で推移。

売上高

前年同期比

146.0億円 ▲0.1%

■ 国内事業

ホタテ関連以外の事業は、堅調に推移。

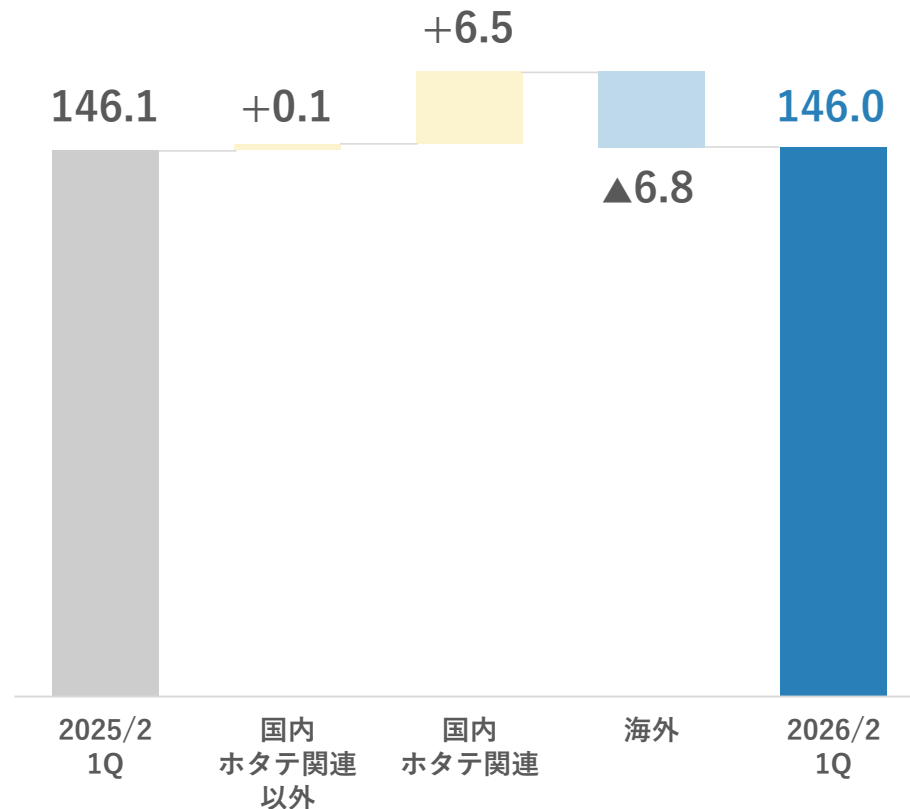
ホタテに関連する事業は、ホタテの販売単価が上昇したことで大幅に増収となる。

■ 海外事業

シンガポールにおける景気減速の影響により、飲食店、ホテル、スーパー向けの販売が低迷したこと、及び前期に行ったホタテの原料販売が当期はなくなったことにより減収となる。

売上高の内訳

単位：億円



ホタテ関連事業において、帳簿価額を引き下げた棚卸資産の販売がなくなったことによる反動減、及びホタテの仕入価格上昇により減益となる。
海外事業は、シンガポールの景気減速等の影響により減収となり、減益となる。

営業利益

前年同期比

7.0億円

▲37.8%

■ 国内事業

ホタテ関連以外の事業は、前年同期と同水準で推移。

ホタテに関連する事業は、中国による日本産水産物の輸入禁止措置を受けて帳簿価額を引き下げた棚卸資産の販売がなくなったこと（※）に加え、ホタテの仕入価格上昇の影響を一部受けたことにより、減益となる。

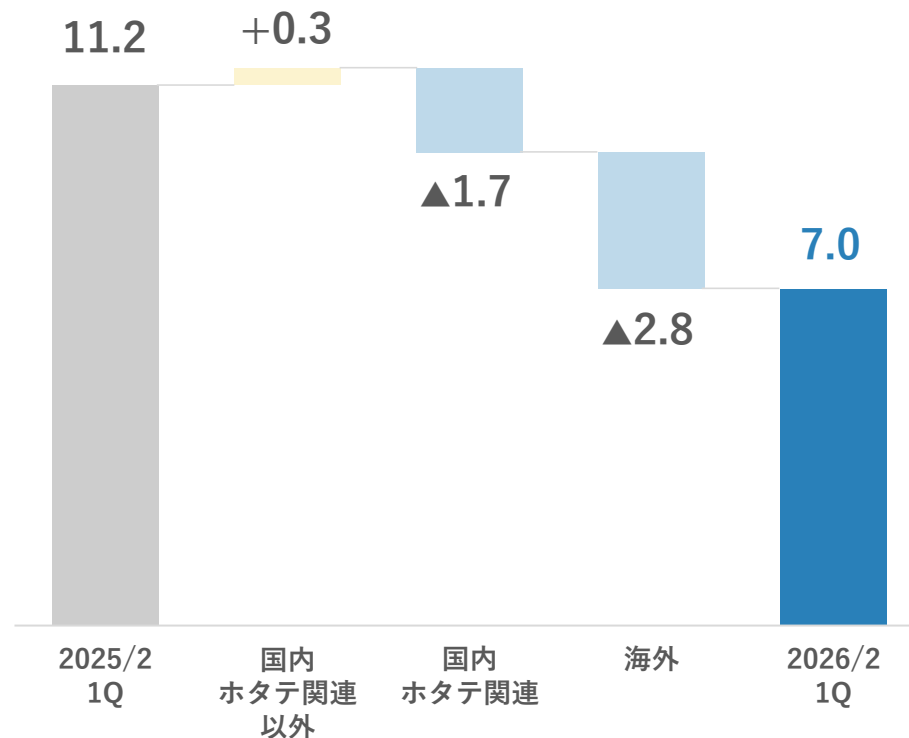
※2023年8月に中国が日本産水産物の輸入を全面禁止したことにより、ホタテの市場価格が下落し、当社は2024年2月期において、マルキチ及びワイエスフーズグループが保有していた棚卸資産の単価（帳簿価額）を市場価格（正味売却価額）まで引き下げた。その後、市場価格は回復し、前期（2025年2月期）において、評価を引き下げた棚卸資産を売却したことにより利益が発生した。

■ 海外事業

シンガポールにおける売上減少の影響、及び前期に行ったホタテの原料販売が当期はなくなったこと等により減益となる。

営業利益の内訳

単位：億円



経常利益及びEBITDAの推移

経常利益及びEBITDAは、営業利益の減少に加え、
為替差益 3 百万円（前年同期は93百万円）及び支払手数料を計上したことで減少。

経常利益

前年同期比

6.2億円

▲ 50.9%

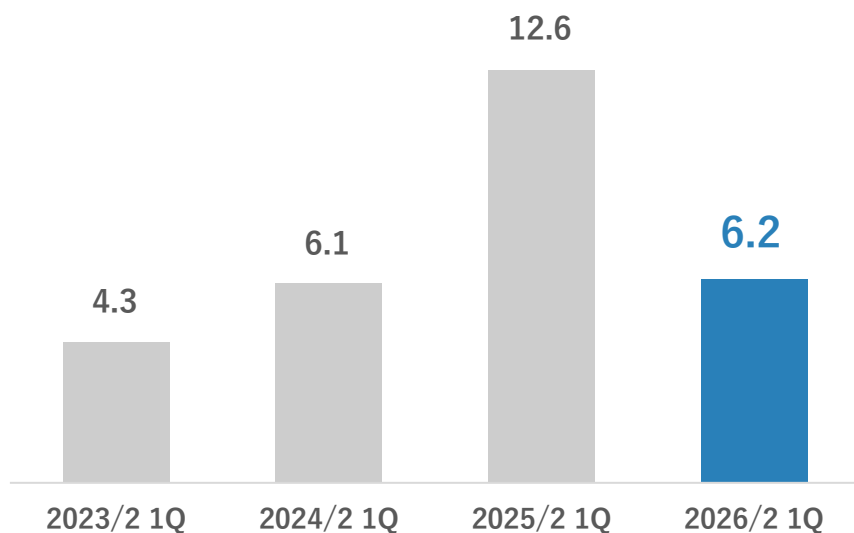
EBITDA

前年同期比

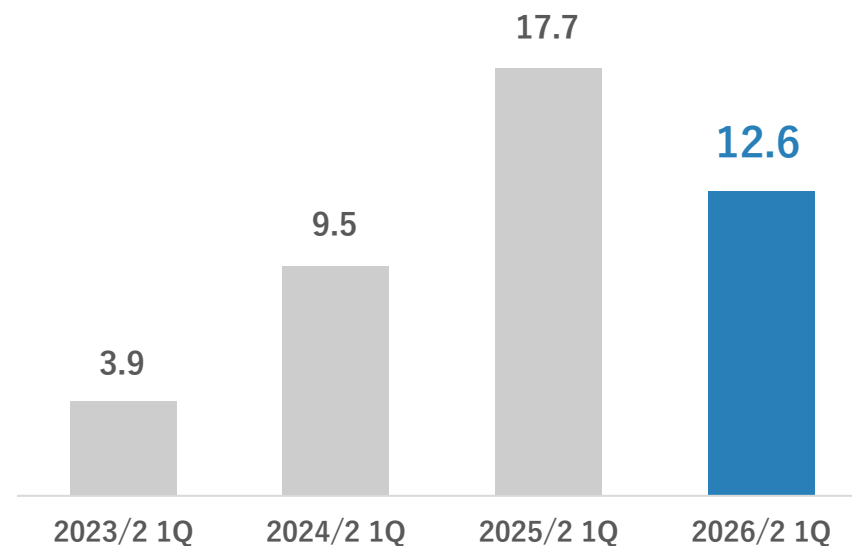
12.6億円

▲ 28.4%

単位：億円



単位：億円



(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

2026年 2 月期 1 Q決算詳細



連結損益計算書

(単位：百万円)	2025年2月期 1Q		2026年2月期 1Q		前年 同期比	2026年2月期 業績見込	
	構成比		構成比			(通期)	進捗率
売上高	14,614	100.0%	14,600	100.0%	▲ 0.1%	60,700 ~ 63,700	22.9 ~ 24.1%
売上総利益	3,495	23.9%	3,024	20.7%	▲ 13.5%	-	-
販管費	2,370	16.2%	2,324	15.9%	▲ 2.0%	-	-
営業利益	1,125	7.7%	700	4.8%	▲ 37.8%	3,000 ~ 4,000	17.5 ~ 23.3%
経常利益	1,263	8.7%	620	4.3%	▲ 50.9%	2,900 ~ 3,900	15.9 ~ 21.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	592	4.1%	286	2.0%	▲ 51.8%	1,120 ~ 1,580	18.1 ~ 25.5%
EBITDA	1,771	12.1%	1,268	8.7%	▲ 28.4%	5,570 ~ 6,570	19.3 ~ 22.8%

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

ホタテ原料の仕入シーズンが始まったことで、棚卸資産と借入金が増加
自己資本比率は、借入金が増加したこと等により若干減少

(単位：百万円)	2025年2月期末 時点	2026年2月期 1Q 時点	前期末比	備考
流動資産	32,448	34,672	+ 2,223	
現金及び預金	13,170	11,179	▲1,991	■ 現預金 棚卸資産の増加による減少
受取手形及び売掛金	8,186	7,767	▲418	
棚卸資産	10,177	14,494	+4,316	■ 棚卸資産 主にホタテの仕入シーズンが始まったことによる増加
固定資産	23,620	23,013	▲ 606	
有形固定資産	11,217	10,996	▲221	
のれん	6,580	6,259	▲320	■ のれん のれんの償却に加え、為替変動により減少
顧客関連資産	3,544	3,452	▲92	
総資産	56,069	57,686	+ 1,617	
流動負債	20,479	22,248	+ 1,769	
借入金及び社債	12,434	14,680	+2,246	■ 借入金 棚卸資産の購入資金として短期借入金が増加
固定負債	19,055	18,765	▲ 290	
長期借入金及び社債	16,476	16,138	▲337	
純資産	16,534	16,672	+ 138	■ 自己資本 自己資本比率は19.3% (前期末比▲0.4%)
自己資本	11,042	11,139	+96	

売上高の状況（セグメント別）

ワイエスフーズ、マルキチはホタテの販売単価上昇に伴い増収
海外子会社は、製造事業セグメント、販売事業セグメント共に減収

(単位：百万円)	2025年2月期 1Q	2026年2月期 1Q	前年同期比	備考
製造事業セグメント	11,933	12,181	+2.1%	
ワイエスフーズ ※マタツ水産、清藤水産を含む	2,863	3,497	+22.1%	■ ワイエスフーズ、マルキチは、ホタテの販売単価上昇に伴い増収
楽陽食品	1,407	1,392	▲1.0%	
マルキチ	988	1,001	+1.3%	
Pacific Sorby	1,029	881	▲14.3%	■ Pacific Sorby、NKRは、シンガポールにおける景気減速の影響を受けて減収
NKR ※子会社3社を含む	1,038	775	▲25.3%	
オープン	654	637	▲2.6%	■ 富強食品は当第1四半期より連結開始
その他（18社）	3,951	3,994	+1.1%	
販売事業セグメント	2,576	2,375	▲7.8%	
ヨシムラ・フード	1,480	1,415	▲4.4%	■ Sin Hinはホタテの原料販売がなくなったこと等により減収
Sin Hin	751	561	▲25.3%	
その他（2社）	344	399	+15.8%	
その他事業セグメント	103	42	▲58.9%	
合計	14,614	14,600	▲0.1%	

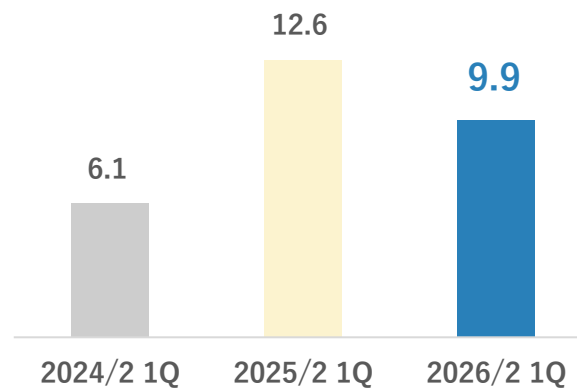
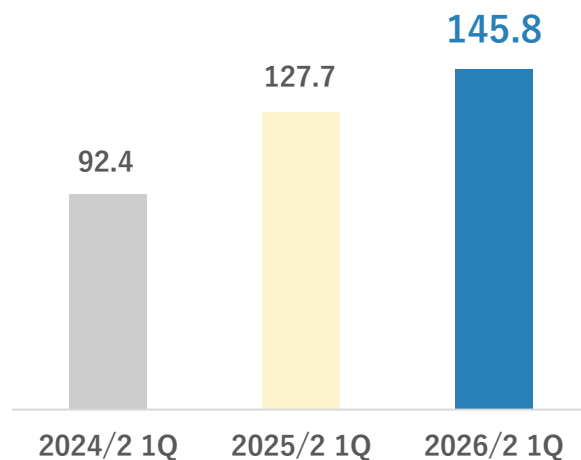
(注) 上記売上高は、内部取引調整後の金額を記載しております。

単位：億円

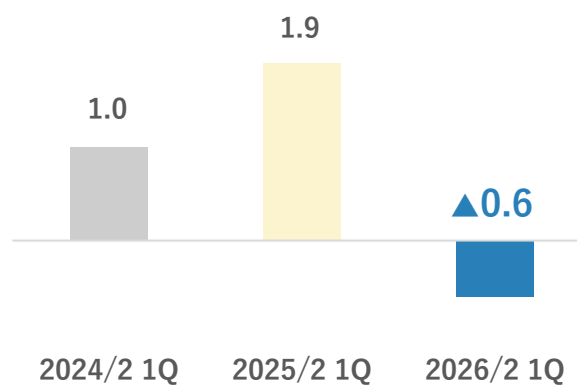
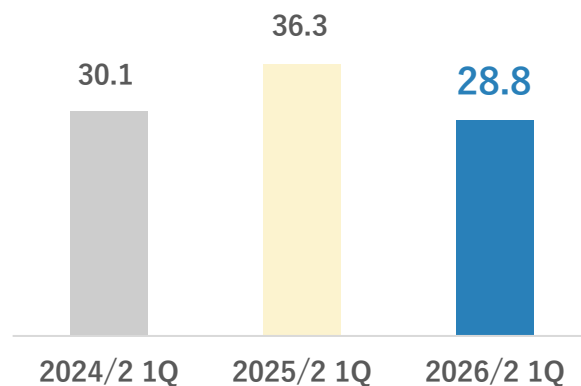
売上高

営業利益

国内



海外



(注) 売上高は、セグメント間の取引が含まれております。

(注) 営業利益は、のれん償却額等を含めておりません。

トピックス



2025年7月3日に、EXAMAS JAYA SDN. BHD.とEQUIPMAX PTE. LTD.をグループ化 ロールアップ戦略として、当社グループ会社であるNKRとのシナジー効果を見込む

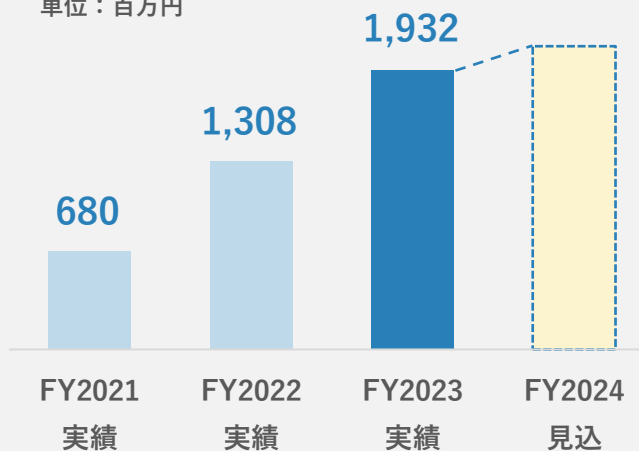
- EXAMASとEQUIPMAXは、マレーシアとシンガポールにおいて業務用厨房機器の輸入販売及びメンテナンスを行う企業
- 自社メンテナンス部隊（マレーシアで最大規模）による広範かつ迅速なアフターサービス体制を構築しており、他社との差別化を図り、業界内で確固たる地位を確立
- 当社のグループ会社であるNKRと競合関係にあり、グループ化によって市場シェア拡大と相乗効果の創出が期待できる
- 特に経済成長が著しいマレーシアにおいて、今後も高い成長が見込まれる

連結損益への取込は
今期3Qからを予定



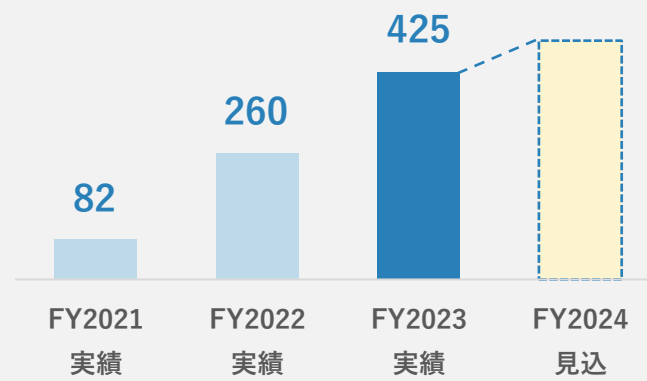
連結売上高

単位：百万円



税金等調整前連結当期純利益

単位：百万円

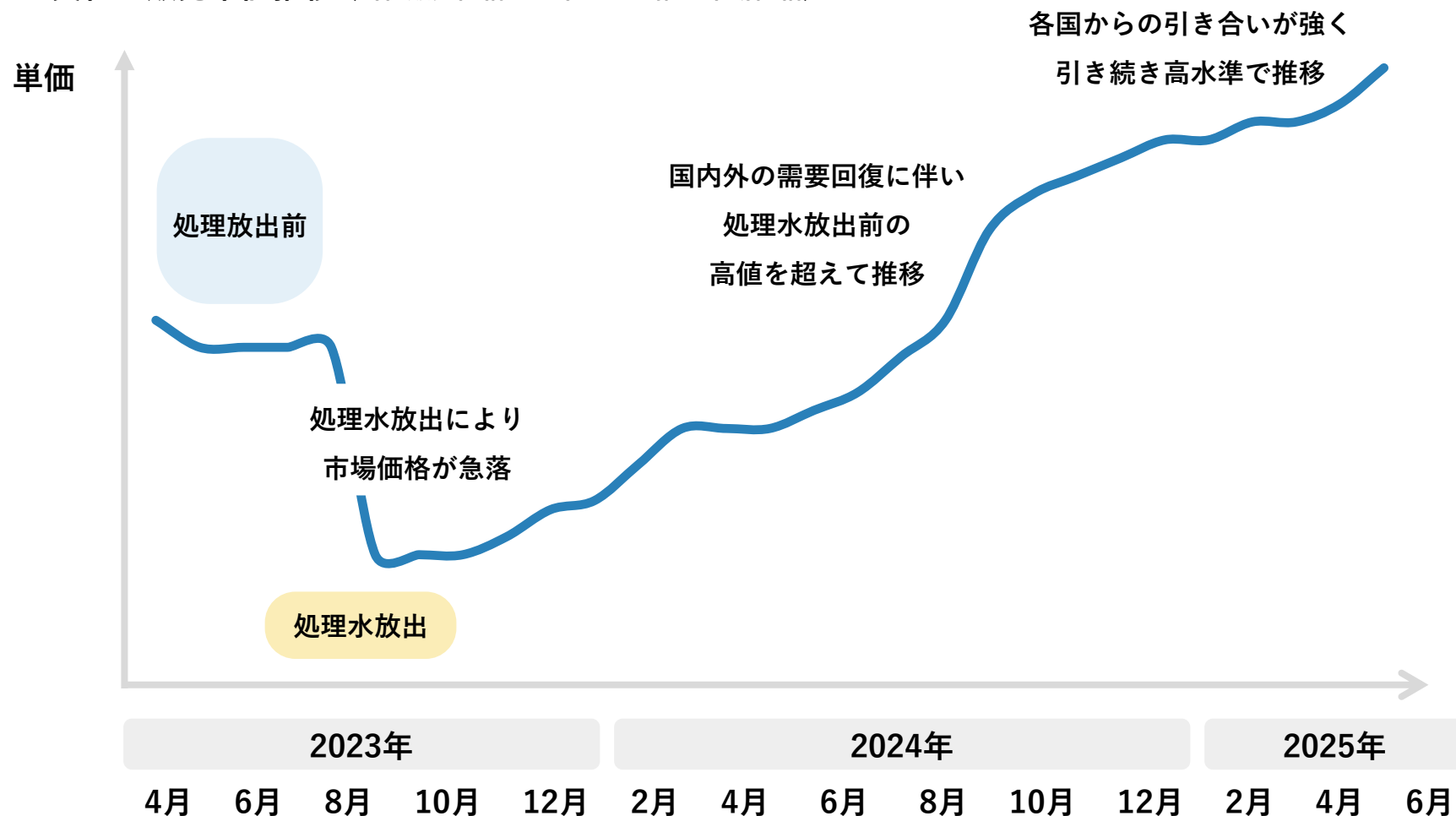


(注) EXAMAS及びEQUIPMAXを連結した経営成績及び財政状況を表示しております。日本円は、1リンギットを33.7円（2025年6月2日現在）で換算して表記しております。2021年、2022年及び2023年は、当社がデューデリジェンスを行った結果として作成した連結経営成績及び連結財政状態を記載しています。EXAMASは12月決算、EQUIPMAXは5月決算であるため、2023年12月期の表示にあたっては、EXAMASの2023年12月期及びEQUIPMAXの2024年5月期を連結しております。2021年及び2022年についても同様の方法により連結した経営成績及び財政状況を表示しております。EQUIPMAXの財務情報をマレーシアリンギットに換算する際、損益計算書項目には同日までの12か月間の平均レートを使用しています。適用レートは以下のとおりです：損益計算書項目：2021年 3.11、2022年 3.28、2023年 3.48 (RM/SGD)

ホタテ市場価格の推移

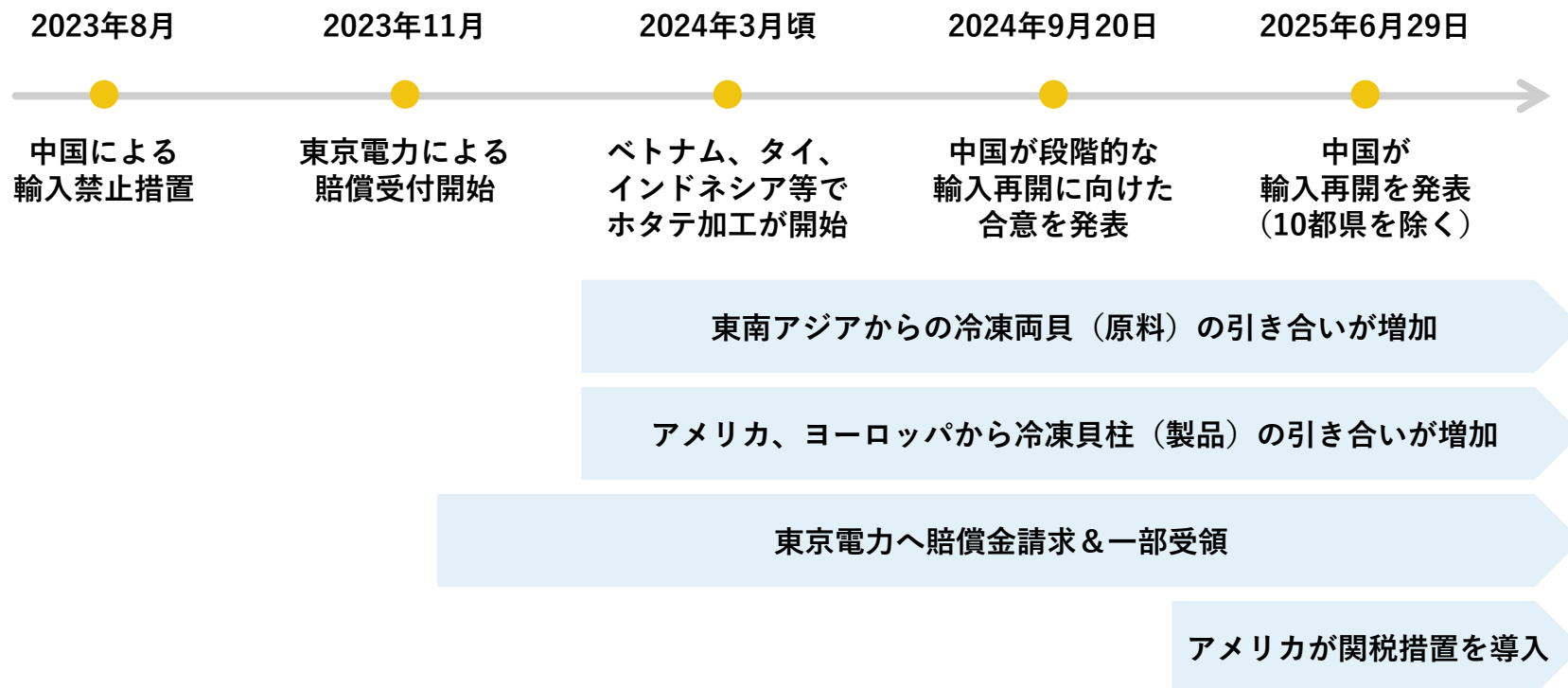
ホタテの市場価格は、国内外からの高い需要を背景に、引き続き高水準で推移
一方、ホタテ原料の引き合いも強く、仕入価格（浜値）は上昇している

ホタテ貝柱の販売単価推移（当社販売価格を基準とした推定市場価格）



2025年6月29日、中国が日本産水産物の一部輸入再開を発表。中国への輸出再開に向けた対応を進めつつ、市況の動向を注視しながら販売戦略を検討していく。

中国禁輸から現在までの状況



中国が輸入再開を発表し、
マルキチ、ワイエスフーズは輸出に向けて施設登録を進めている

Appendix



MISSION

いつまでも、この“おいしい”を楽しめる社会へ

～消費者が多様な食文化を享受できる豊かさの実現～

- 私たちは、人々が、多種多様な選択肢から自分の嗜好に合わせて自由に選択でき、それが尊重される社会こそ、豊かで幸せであると考えます。
- 私たちは、世界中の消費者が、多種多様で高品質な“おいしい”を自由に選択し、それを楽しめる豊かな社会を目指してまいります。

VISION

地域の“おいしい”を守り、育て、世界へ

- 私たちは、「いつまでもこの“おいしい”を楽しめる社会」を実現するため、日本および世界で大切にされてきた“おいしい”を見つけ、守り、育て、世界へと届けてまいります。
- そのために、私たち独自の“おいしい”を見つける目利き力、“おいしい”を守る事業基盤、“おいしい”を育てる支援機能、“おいしい”を世界へと届ける販売網を構築してまいります。
- その結果として、世界の食文化と多様化、地域社会の活性化を推進するグローバルプロデューサーとなります。

VALUES

「あなた“らしさ”を大切にします」

- 私たちは、私たちに関わる全ての方のあなた“らしさ”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループで働く社員の“個性”、“新しい発想”、“チャレンジ精神”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“歴史”、“文化”、“社員”、“取引先”、“地域社会”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“強み”を伸ばし、“弱み”を補い合い、共に成長してまいります。
- 私たちは、私たちに関わる全ての人の“らしさ”を大切にした結果、多様な選択肢のある豊かな社会づくりに貢献します。

会社概要

■ 社 名	株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス
■ 設 立	2008年3月18日
■ 代 表 者	代表取締役 C E O 吉村 元久
■ 本 社	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル18階
■ 資 本 金	1,157百万円（2025年2月末現在）
■ 主 要 株 主	吉村元久 37%（株式会社MY保有分含む） 国分グループ本社(株) 5% 他
■ 連 結 業 績	売 上 高：58,110百万円 経常利益：4,251百万円（ともに、2025年2月期）
■ 従 業 員 数	連 結：1,934人 単 体： 29 人（ともに、2025年2月末現在）
■ 事 業 内 容	食品関連会社の株式を保有する持ち株会社。 子会社において各種食品の製造・販売。
■ 連結子会社数	38社
■ 市 場	東証プライム（2884）

代表取締役 C E O

吉村 元久 Motohisa Yoshimura

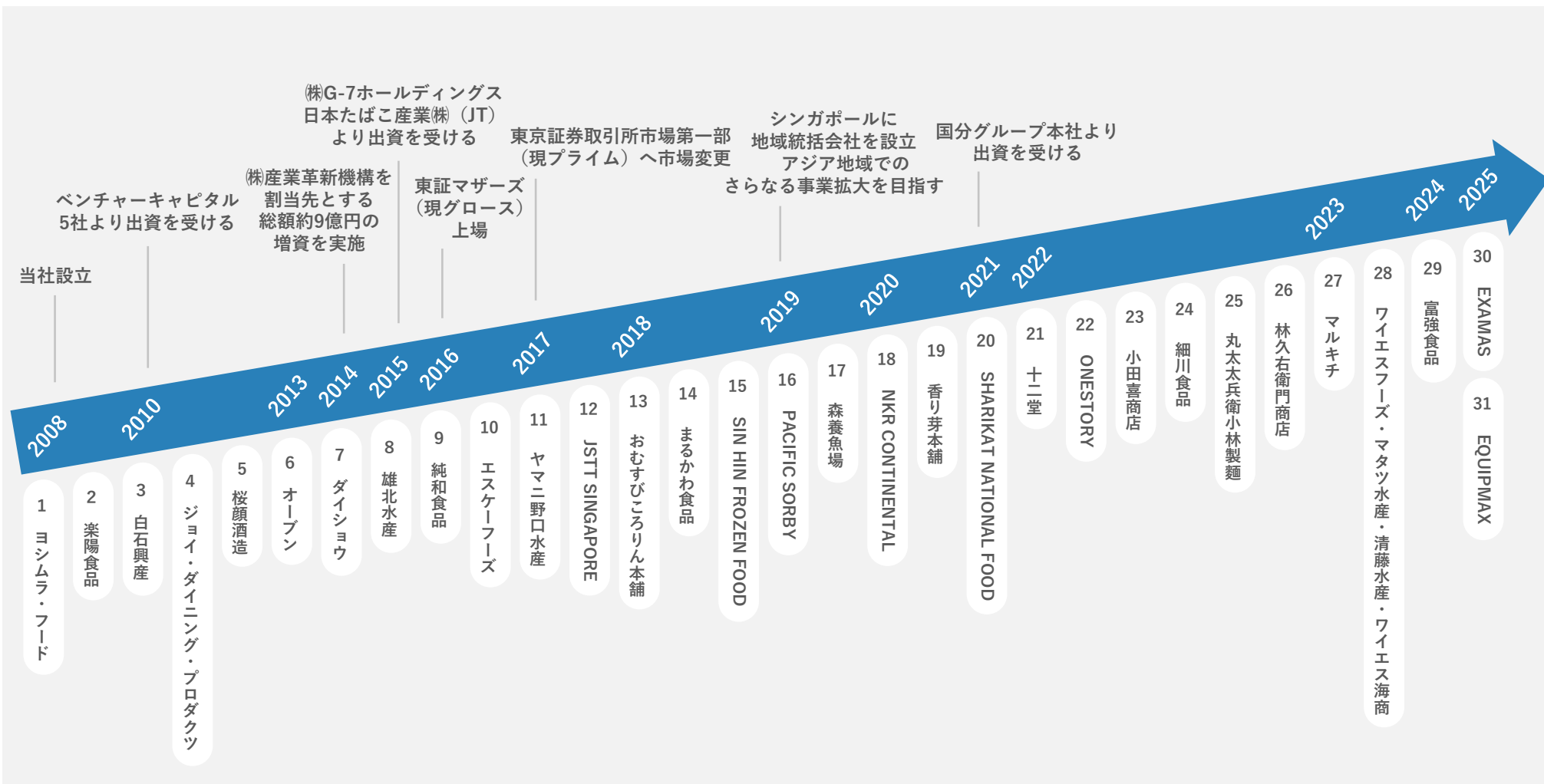


出 身 地 北 海 道 函 館 市

最終学歴 1988年3月 一橋大学商学部卒業
1994年6月 ペンシルバニア大学大学院
ウォートン校卒業（MBA）

職 歴 1988年4月 大和証券株式会社入社
事業法人部 上場企業の資金調達業務
1996年7月 同社 資産証券部 課長代理
資産の証券化業務
1997年10月 モルガン・スタンレー証券株式会社入社
事業法人部 エグゼクティブディレクター
コーポレートファイナンス業務
2008年3月 当社 代表取締役（現任）

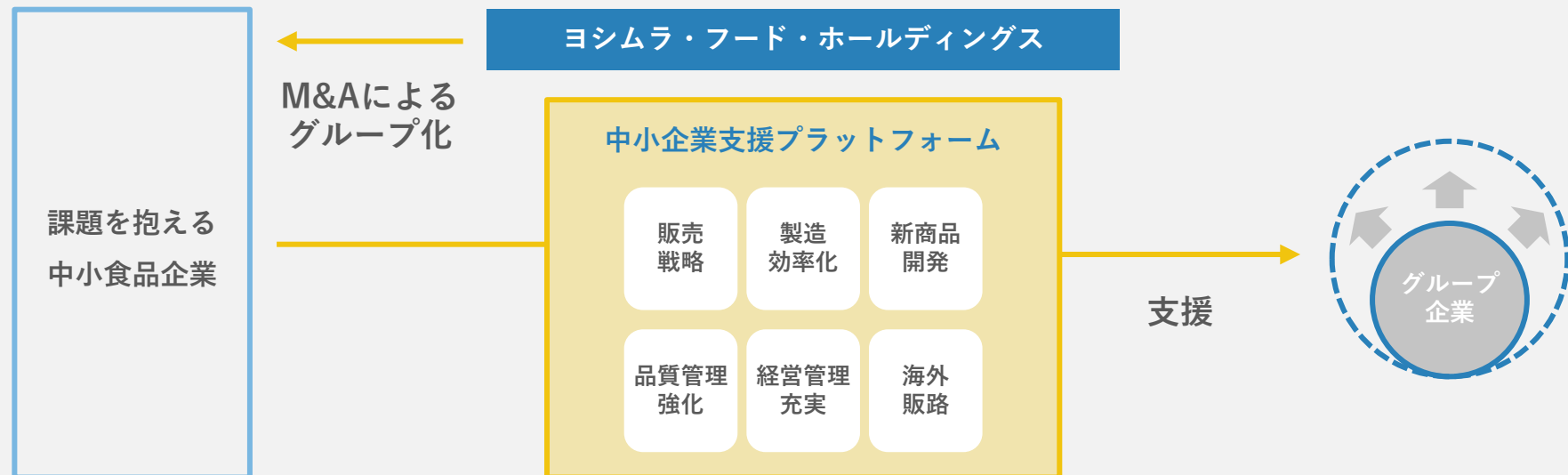
中小食品企業のM&Aと 当社ビジネスモデルへの共感企業からの出資の歴史



食品業界におけるユニークなビジネスモデルにより、
当社は**2つの成長エンジン**を有する

1. M&Aを通じたグループ化による成長

2. 経営支援及びグループ企業間の シナジー効果による成長



グループ会社を機能別に統括することで、相互補完・相互成長を図る仕組み

ヨシムラ・フード・ホールディングス

HD統括

【中小企業支援プラットフォーム】

セールス・マーケティング

販 売 戦 略

商 品 開 発

商 品 戦 略・新 商 品

生 産 管 理

効 率 化

購 買・物 流

コ ス ト ダ ウ ン

品 質 管 理

安 心 安 全

経 営 管 理

経 営 効 率 化

海 外 販 路

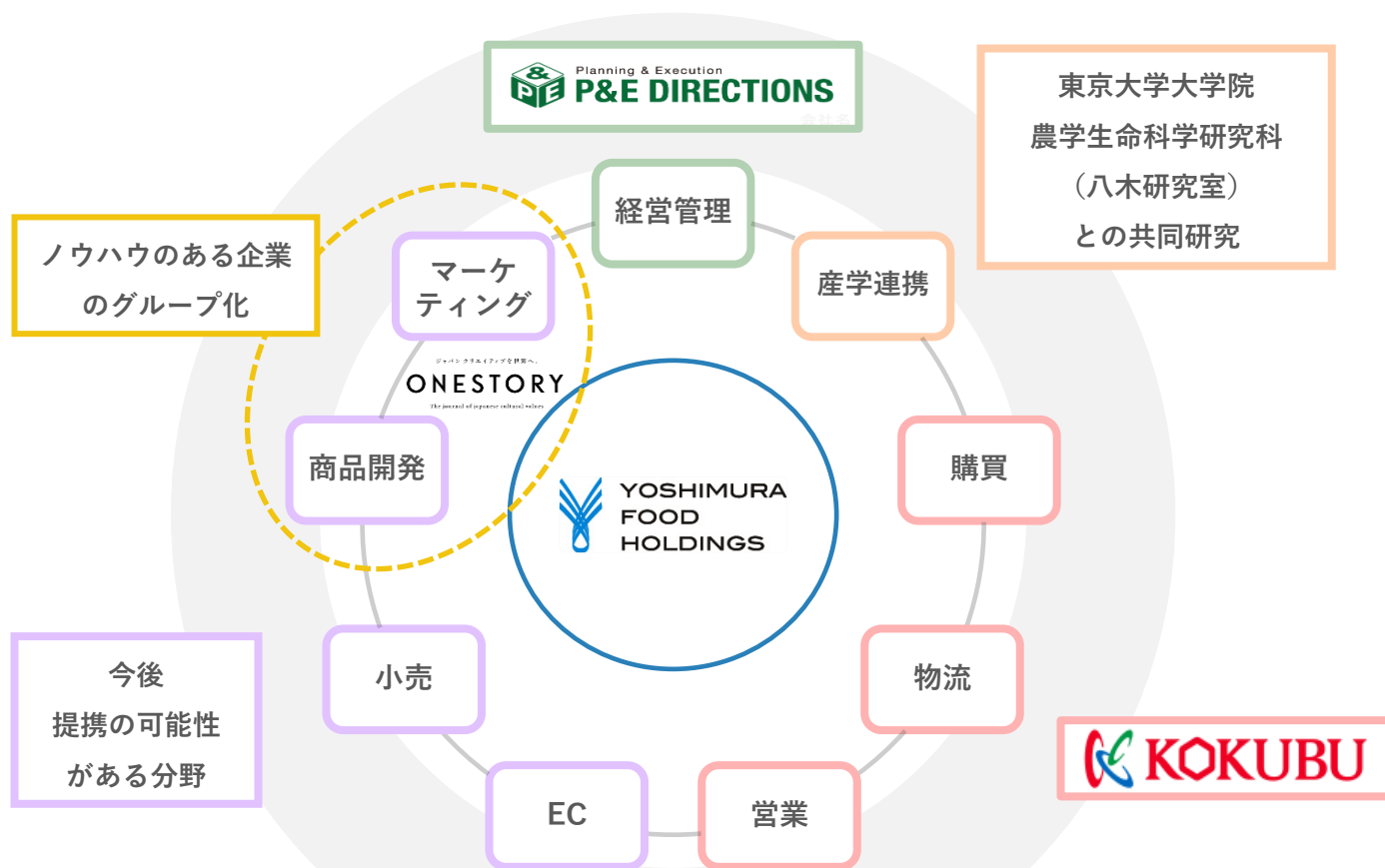
販 路 拡 大・売 上 増 加

傘下のグループ企業

グループ会社の 有機的な相互補完関係

- 会社の壁を越えて
機能ごとに横断的組織を構築
- 各機能別の統括責任者が
グループを横断的に統括
- 各社の持つ強みを
グループ全体で共有し
弱みを補い合う

バリューチェーンごとに最適なパートナーとの提携やM&Aを行うことで、
より一層の成長を目指す



提携先と一体となり中長期的な成長を実現

後継者不在企業を譲り受け、グループ化して活性化する当社の事業は
正に**ESG経営そのもの**であり、ESG経営をより強化することで**持続的な成長を実現**



グループ会社の概要

楽陽食品



シウマイ・餃子

- 国内5か所に工場
- チルドシウマイの生産量は国内トップシェア

白石興産



乾 麺

- 明治19年創業
- 宮城県白石市特産の白石温麺が主力商品

桜顔酒造



日本酒

- 昭和48年岩手県の地場の酒蔵10社で設立
- 県内出荷量2位

オープン



冷凍かきフライ

- 広島産カキを調達する独自ルートを保有
- 鶏なんこつ唐揚げ等も製造

ダイショウ



ピーナッツバター

- ピーナッツバターのパイオニアで、主力商品は30年以上続くロングセラー

雄北水産



まぐろ加工品

- 船凍品のまぐろを使用した、ねぎとろ、まぐろ切り落としを製造販売

純和食品



ゼリー

- 高い技術力と彩の国HACCPに認定された高い品質管理能力

エスケーフーズ



とんかつ

- 「彩の国優良ブランド品」に認証された「むさし野とんかつ」が主力商品

ヤマニ野口水産



水産加工品

- 鮭とばやいくら醤油漬け等北海道の新鮮な原料を使用した水産品を製造

JSTT SINGAPORE



寿司

- シンガポールの工場にて寿司等を製造し、シンガポールの大手スーパーへ販売

おむすびころりん本舗



フリーズドライ

- フリーズドライ加工、フリーズドライ製品の製造、非常食の販売

NKR CONTINENTAL



業務用厨房機器販売

- 主にシンガポール及びマレーシアの高級ホテル等へ、業務用厨房機器を設計・製造・施工・販売

香り芽本舗



ふりかけ・スープ

- ソフトタイプのわかめふりかけ、わかめスープ等の自社商品からOEMまで、高品質かつ多様な商品を製造

森養魚場



鮎 (アユ)

- 岐阜県内3カ所において、高品質な鮎を養殖、販売
- 高度な養殖技術を有し、子持ち鮎の安定生産が可能

まるかわ食品



ぎょうざ

- 静岡において、秘伝のレシピによるぎょうざを製造
- 自社店舗には行列が絶えない人気店

グループ会社の概要

PACIFIC SORBY



水産加工品

- シンガポールの主要なホテルに対し、自社加工した冷凍ロブスター、カニなどを販売

細川食品



かき揚げ

- かき揚げ、チヂミ、赤飯等の冷凍食品製造
- 野菜加工及び野菜原体の販売

マルキチ



ホタテ

- オホーツク海で獲れた、大粒で肉厚なホタテの加工販売（主に輸出向け）
- サケやカニ等も取り扱う

EXAMAS・EQUIPMAX



業務用厨房機器販売

- マレーシア及びシンガポールのファストフードチェーン等へ、厨房機器の販売・保守サービスを行う

十二堂



ふりかけ

- ソフトふりかけ「梅の実ひじき」等を製造、販売
- 全国に多くのファンを持ち根強い人気を誇る

丸太兵衛小林製麺



生麺（ラーメン）

- 生麺、餃子の皮、たれ等調味料の製造・販売
- 得意先は北海道内外のラーメン店

ワイエスフーズ



ホタテ

- 噴火湾沿岸で漁獲されたホタテの加工販売
- サケ・いくらやイカ等も取り扱う

小田喜商店



栗加工品

- 厳選した良質な地元産の「いわまの栗」を使用した高品質な栗製品を製造・販売

林久右衛門商店



だし

- 明治18年創業経節専門店
- 上質な厳選素材にこだわった削り節、だしの製造加工・販売

富強食品



中華料理材料

- 春巻きの皮を主力商品とした中華食材の製造販売
- 日本で初めて春巻きの皮を製品化した企業

その他

SHARIKAT NATIONAL FOOD



不動産賃貸・管理

- シンガポールにおいて食品工場兼食品用低温倉庫を所有し不動産賃貸業を行う

ONESTORY



マーケティング・コンテンツ開発等

- 地域に眠る「食」や「文化」等を再発掘・再編集し、プレミアムなコンテンツとしてプロデュース

ヨシムラ・フード



業務用惣菜

- 業務用食材の企画・販売が主、自社で物流を持たず、販売先へ直送するビジネスモデルを構築

ジョイ・ダイニング・プロダクツ



宅配等

- 冷凍食品の企画・販売
- 全国の生活協同組合と直接窓口を保有

SIN HIN FROZEN FOOD



水産品卸

- シンガポールの水産品卸
- 主力商品は、エビ、ホタテ、カニ等

本資料の取り扱いについて

- 本資料に記載されている市場環境等の情報に関する記述は、当社が独自で調査を行ったものであり、必ずしもその内容の正確性及び完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来情報に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく不確実性を含んでおります。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査法人による監査を受けていない管理資料が含まれております。

